

児童が主体的に学習問題の解決に向かう小学校社会科指導の工夫 -調べ学習における資料の読み解きと対話を通して-

授業実践 6年社会科「戦国の世から天下統一へ」 特別研修員 社会 倉田 有希（小学校教諭）

児童の実態

- 発言が活発で、自分の言葉で疑問に思ったことを表現できる児童が多い。
- 複数の資料からつながりや関わりを見いだしたり、因果関係を表現したりすることが難しい。

教師の願い

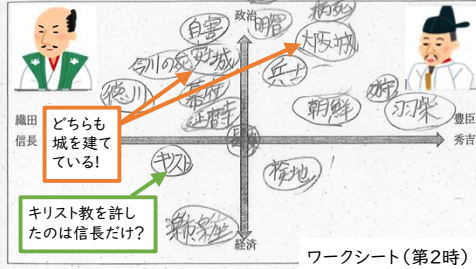
- 児童自身から湧き出てきた疑問を大切に、それを解決するため、主体的に活動してほしい。
- 「どうして」「どのように」「どうなった」という疑問から考えを深め、解決のために資料を探したり、友達と対話したりしてほしい。

学習問題

手立て①学習過程に応じて資料を読み解く活動の設定

資料から分かることを書き出し、予想する

2. 資料2から、織田信長の行ったことと豊臣秀吉の行ったことを「政治関係」と「経済関係」に分類しましょう（予想でよい）。



めあてを達成するために、複数の資料から分かったことを比較する

織田信長が安土城を建てたのは、京都に近く水路と陸路を使えるという政治的な目的があったからで、城下町を発展させたのは戦いに備えるためのほか商人を集めるためという経済的な目的もあったと思う。（児童ワークシートより）

豊臣秀吉が大阪城を建てたのは天下統一をなしとげた自分の権力を見せつける政治的な目的があった。また、検地と刀狩は百姓を支配し税を取るという政治・経済両方の目的があった。（児童ワークシートより）

共通点：政治・経済両方の目的があった。

相違点：織田信長は城下町を発展させた。豊臣秀吉は検地と刀狩を行った。

織田信長と豊臣秀吉の政策、その目的を考える（第4～5時）

根拠となる資料を選択しながら、学習問題に対する自分の考えをまとめる

政治政策・経済政策に分けたうえで、二人の共通点・相違点に着目

<織田信長>
城下町を発展させ、いつでも戦に行けるように備えていたり、楽市・楽座で物資の流通を活発にさせたり、南蛮貿易をしたりと、政治と経済の両方をバランスよく行っている。

<豊臣秀吉>
検地や刀狩で確実に年貢を納めさせていたり、石見銀山を支配して貿易を活発にしたりと秀吉は経済面のことを多に行っており、そこが違いだと思った。

意見文（第6時）

だけどどちらも天下統一を目指していたり、貿易を大事にしたり、共通するところもあったとわかった。

手立て②対話を軸とした調べ学習の場づくり

見通しがもてるよう、児童同士で予想を共有する

権力を示したかったのかな？

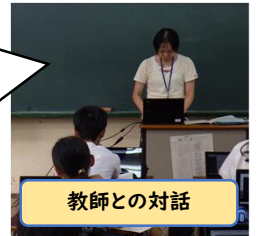


児童同士の対話

信長も秀吉も城を建てているね

複数の視点（変化・目的等）を基に、教師や友達と対話しながら試行錯誤を重ねる

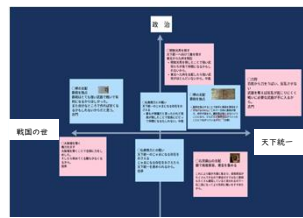
豊臣秀吉はなぜ城を建てたのだろうか？
どうして大阪に建てたのだろうか？織田信長と考えは似ているのかな？



教師との対話

歴史上の人物になりきったり、その上で友達と交流したりして時代の特徴をつかむ

信長・秀吉それぞれの政策で天下統一のために重要だと思うものを一つずつ挙げて、交流する（信長が青・秀吉が赤）



既習事項や資料との対話

シンキングツールと、それを基にした交流（第6時）

つかむ

追究する

まとめる

目指す児童像

- ①学習問題に対して予想や見通しをもって、検証に必要な資料を読み解ける児童
- ②複数の資料を関連付けて読み取り、気付いたこと、考えたことを対話できる児童

成果（○）と課題（●）

- 複数の資料を比較する際に、共通点・相違点などの視点をもつことで、歴史上の人物の政策等の意図を児童自身で浮かび上がらせることができた。
- 「つかむ」「追究する」「まとめる」段階で、児童同士の対話を重ねる活動を取り入れることで、児童は自分の考えを整理したり、友達の考えを取り入れて意見文を書いたりすることができるようになった。
- 資料を提示して自分の考えを伝えることが難しい児童が多かった。学習問題の解決に資料を有効活用している児童を紹介するなど、学習状況を見取りながら支援を加えていくことが必要である。